

文化スポーツ委員として  
楽しい企画を発信



豊支部  
塚本茂総代

文化スポーツ委員会は、毎月第一水曜日10時から「月1ウオークまち歩き」を開催しています。この会は2021年6月から始まった大人気のウォーキング企画です。2020年の新型コロナの影響で、これまで行ってきた健康まつりやバスハイク、文化祭などさまざまな企画ができなくなり、集まることもできなくなりました。そんな中、文化スポーツ委員会はコロナ禍でもできることはいくつかあります。参加者も不安なく参加できるイベントができないか? など「気軽に定期的にできる」をコンセプトに検討してきました。

私は、このまち歩きの会には第一回から欠かさず参加しています。2022年11月のまち歩きの会の時に「文化スポーツ委員会を一緒にやりませんか?」と声をかけられ、私の方針に合わせることがあればと委員を引き受けました。

新型コロナが2類から5類に引き下げられましたが、まだ油断できない状況です。そんな中でも組合員の皆さんと一緒に健康づくりができる楽しい企画を考えて発信していきたいです。

職員が結集して取り組んだ仲間増やし月間  
毎年鶴の木・雪谷支部ではうき診療所の患者さんで未加入の方へ、所長名の加入のお誘いをお送りしています。手紙が届いた頃を見計らって、職員から電話をかけ加入を改めて勧めました。昨年度は280名に電話し、84名と対話できましたが、加入は5名と伸びませんでした。そこで、支部会議で協議し、訪問することになりました。2〜3名1組で148軒訪問し、対話は58名、その中から11人の加入につながりました。

訪問の最初は「えっ!? 誰?」というお宅もありましたが、澤浦所長の名前を出すとわかってくれる方も多かったです。その場での加入は難しかったですが、後日加入される方もいらっしゃいました。

このメリットはサービス提供責任者が他事業所にも応援に行ける点です。各事業所の管理者はお互いの勤務を確認できるようになりました。業務量を調整して、事業所間で職員の応援を出し合えるようにし、前年度より働き方がスリム化されてきています。

職員確保が一番の課題ではありますが、さまざまな方法で対応していきたいです。

平和について  
真剣に考えて欲しい



鶴の木・雪谷支部  
本間憲史総代

友人の紹介で生協に加入し、その後城南医業保健協働で働き、労働組合のつながりから大田原水協の活動に参加しました。大田原水協の活動は、毎年、元日の池上本門寺参道での宣伝

行動からはじまります。そして、3月の3・1ビギニデーや5月7日の国民平和行進、8月の原水爆禁止世界大会への参加などが主なものです。12月には大田区に在住するヒバクシャの方に1万円を贈る行動をしています。大田区にはヒバクシャの方が70名以上在住されています。その中から3〜4名の方限定となつてしましますが、お見舞い金を送る活動を東友会と連携して行っています。

いま戦争が近づいているような危険な状況で、多くの人たちに戦争について平和について真剣に考えてもらいたいという思いで行動しています。

コロナ禍の昨年8月、グループホーム虹の家しおかせで、入居者6名・職員4名のクラスターがありました。施設内のゾーニングや換気、黙食の徹底など所長はじめ職員のチームワーク

で乗り切りました。2カ所あるグループホームではコロナ前は当たり前に行っていた行事もできなくなっていました。さまざまな工夫をして入居者さんの楽しい思い出が増えるよう職員たちは日々奮闘しています。

ヘルパーステーションすずらん  
川居直美介護部長

海岸・八潮支部の  
お元気ですか訪問



海岸八潮支部  
神田瑞穂理事

この地域は、民医連関係の診療所や病院などがないため、生協へのなじみが薄く加入のお誘いが難しい状況です。コロナ禍となり、いろいろなことができなくなりました。そんな中、支部会議の議論で「月間など」で新

規組合員を増やすことも大切だが、既存の組合員の状況確認も大事」となりました。そこで支部として組合員宅に「お元気ですか?」「お困りごとはありませんか?」と訪問することにしました。2021年11月から開始し、これまでに167名のお宅をまわり48人の組合員やご家族と対話してきました。

「コロナが不安で趣味の登山ができず足が弱ってしまった」という方には体操班を紹介し、参加してくれました。また、「最初に出資金1000円しか出し

ていないのに、機関紙が毎回届いて申し訳ない」という方もいらっしゃいました。その他「独自の健康維持の工夫」「自分が生協に入ったきっかけ」「物価高騰で生活が大変なご様子」など対話ができました。訪問行動をする中で組合員とつながることが大事だと感じました。コロナ禍で途切れてしまった地域のつながりは生協活動を通じて取り戻していけると思っています。支部の目標は地域組合員の全戸訪問です。引き続きがんばります。

2030年に向けた  
組合員活動のあり方  
城南保健生協では「組合員の高齢化」「組合員数の減少」「活動への参加人数の減少」などが大きな課題となっています。このままでは活動への参加のさらなる減少、地域を支える一翼を担う生協の役割を果たせなくなるのではないかなどの危機感を感じています。

「自分自身の健康のために、そして地域の皆さんの健康のため」なような学習会をやろう」「これは居場所として活用できるかも」「困っている人がいたら城南保健生協へつなげる」など組合員の皆さんと一緒に「誰もが安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます。」

コロナ禍での  
介護事業報告



すずらん  
川居直美介護部長

このメリットはサービス提供責任者が他事業所にも応援に行ける点です。各事業所の管理者はお互いの勤務を確認できるようになりました。業務量を調整して、事業所間で職員の応援を出し合えるようにし、前年度より働き方がスリム化されてきています。

職員確保が一番の課題ではありますが、さまざまな方法で対応していきたいです。

7月21日(金)に、中延ダンベル班での学習会を行いました。新日本婦人の会品川支部との共催企画で、在原文化センターを会場に26名が参加しました。テーマは「生活習慣病とその予防」で、講師はゆたか診療所看護師長の齊藤明日香さんです。生活習慣病についてわかりやすくお話をいただき、その予防は「一無(無煙)二少(少酒、少食)三多(多動、多休、多接)」がポイントとのことでした。

中延・旗の台支部  
中延ダンベル班  
班会初の学習会でした

脳い守い守教室  
認知症カフェクローバー  
(品川区認知症カフェ登録)  
毎月第2土曜日  
10時~11時30分  
会場: ゆたか診療所3階  
ゆたかの家  
(品川区豊町4-18-21)  
参加ご希望の方はご連絡を!  
03-3762-0266 横山まで



猛暑の中の救護所を  
担いました

校のチャアリーディング部によるチャダンス、秋田県からは、名物のなまはげが登場し場内を賑わせました。

全国の「鶴の木」という地名を持つ地域が、大田区鶴の木の集う「全国鶴の木まつり」が7月22日(土)、3年ぶりに開催されました。毎年、救護所として、鶴の木の

支部だより